



みつぎっ子

学校教育目標

「やさしく かしこく たくましく」

〒400-0048 山梨県甲府市貢川本町8-1 TEL (055) 222-2408 FAX (055) 222-2407 文責：校長 伊東

「学力学習状況調査」の結果について

コロナ禍の中での教育活動も3年目に入り、依然として教育活動に制限はあるものの、学校行事の内容を何回も見直したり、中止、または規模の縮小化などの思い切った工夫を行いながら、教職員一同、子どもたちの学習指導に全力を注いでいます。

さて、コロナ禍の中、世間では、児童生徒の学力低下が心配されていますが、本校児童の学力について、ひとつの判断の目安となるものに、全国学力学習状況調査（学力テスト）があります。今年度は、国語、算数、そして理科の3教科で6年生が調査に臨みました。

この度、調査結果の分析がまとまりましたので、その概要についてお知らせ致します。

本校では、課題点や改善すべき点等については教職員間で共有化を図り、全ての子どもたちに確かな学力を身につけるため、引き続き授業改善に向けて全力で取り組んでまいります。

◆本校の状況について

1. 平均正答率での比較

国 語	県平均 及び 全国平均より	【 やや上回っている 】
算 数	県平均 及び 全国平均より	【 やや上回っている 】
理 科	県平均 及び 全国平均より	【 大きく上回っている 】

本校の平均正答率は、上記の表の通り、国語、算数、理科のいずれの教科においても、全国平均・県平均を上回る結果でした。この学力学習状況調査は、結果の数字だけが全てではありませんが、このコロナ禍における、本校の学習指導の取り組みが、子どもたちの確かな学力の定着を、間違いなく支えていたということが、この結果からうかがい知ることができます。

2. 各教科毎の考察

(1) 国語

課 題 点	<ul style="list-style-type: none">文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題がある。文章から言葉や文を取り上げることができるが、そこから問題にそった説明ができない。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題がある。学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことに課題がある。
改 善 点	<ul style="list-style-type: none">文章を書く場面で、推敲で取り上げた観点を含めて、互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合う活動を取り入れ、他者のみならず自分の文章のよいところを見つけることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none">漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定し、漢字練習、漢字の構成、同音

継続指導	<p>異義語などの学習を行う。また、ノートをとる時や学習感想等を書く時、連絡帳等に文や文章を書く際、漢字を正しく使うように指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にしながらか読む指導では、筆者の考えや意図を根拠となる文を見つけながら明らかにする活動を取り入れていく。また、明らかになった事柄をもとに自分の考えを持ち、それを書き表す活動を取り入れていく。
------	---

(2) 算数

課題点	<ul style="list-style-type: none"> 「変化と関係」に関する問題では、数量が変わっても割合は変わらないことに対する理解に課題がある。 示された場面において、数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理の仕方の理解に課題がある。 立式の根拠などの説明（記述）に課題がある。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる2つの数量を見いだしたり、複数の情報から必要な数量を選択して立式したりすることができるように指導する。 立式の根拠を、図などを使って説明し記述する活動を取り入れる。 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすることができるようにするため、算数の用語を正しく使った説明や発表を、適切な接続詞を用いながら行う機会を設定する。
継続指導	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を的確に捉えられるようにするために、問題解決の場面において、数量の関係を図や数直線などに表す活動を継続して取り組んでいく。 答えを求めるまでに複数の段階がある問題の解決の場面では、自力解決の場面を大切に、考えを持たせるために、図を描いたり具体物を操作したりする機会を設けていく。 日常生活の中で生じた問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見いだすことができるよう指導していく。

(3) 理科

課題点	<ul style="list-style-type: none"> 提示された情報を複数の視点で分析し解釈した上で、自分の考えをもつことに課題がある。 事前の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析し解釈した上で、自分の考えをもつことに課題がある。 日光是直進することに対する理解に課題がある。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 生きて働く知識を習得させるために、主体的な問題解決を通して知識を概念的に理解できるように指導する。 既に獲得している情報と、新しく得た気づきから問題を見いだしていくために、気づきを十分に把握し、それぞれの気づきの視点を明確にするように指導する。
継続指導	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識や法則を、学習や生活場面で利用する機会を設けていく。 模型や視聴覚教材などを有効に活用し、視覚的に理解する場面を設けていく。

なお、『児童質問紙』を含めた分析結果の詳細につきましては、貢川小学校ホームページにも掲載していますので、そちらをご覧ください。